

行田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定委員会
会議の主な内容（抜粋）

日時：令和 2 年 2 月 7 日（金）

場所：産業文化会館 2 階第 2 会議室

〔委員長より〕

- ・ P D C A を回すというのは、管理シートを作成し、計画を立てて、それを評価するもの。
- ・ 何の目標・指標を立てて、それに対する是非がなければ、評価にならない。今回は、評価するものが何もないと理解する。
- ・ 資料では目標値を立てているので、活動内容に対して評価していく。

○いきいき元気サポーターについて

ボランティア登録数の伸びが悪い。周知方法について何かあるのか。

- ・ サポーターは地域の支え合いの重要な役割を担っている。
- ・ 周知は、市報等やお困りの方などに接している民生委員やケアマネージャーに対して紹介をお願いしている。
- ・ 少子高齢化が進行する中で、支え合いの必要性を訴える点は、これまで欠けていた点である。PR の場も増やしていきたい。

○シルバー人材センターについて

会員のなり手がいない。今のうちから対策をしたらどうか。

- ・ 現状、シルバー人材センターの喫緊の課題である。
- ・ 今後は、生活援助に関する部分など、女性会員を増やす方向も検討している。
- ・ 生活支援など、市事業の方向性とも合致するので、連携についても考えていく。

○地域包括支援センター運営の方向性について

「地域共生社会の実現」は、具体的な検討など、どこまで進んでいるのか。

- ・ トータルサポート制度に基づき、健康福祉部としての情報連携し、今後は地域包括支援センターに限らず、医介連携等も含めて協議が必要になると考える。
- ・ 個別のケース対応などは、高齢者の問題だけでなく、複合的な課題が増えているが、複数の課の職員が連携して対応している。

○地域包括支援センターについて

1 カ所の増設はどうなっているのか。

- ・ 増設については、令和 2 年度中に開設できるよう準備を進めている。

○要介護認定率について

14%台を維持してきている。高齢者人口も増加していくので、上昇率を抑えて欲しい。そのための重度化防止事業は実施しているのか。

- ・介護予防日常生活総合事業として、要支援の方などへのデイサービス、ヘルパーサービスのほか、短期集中型サービスとして、専門職が自宅を訪問して、サービスを導入するなどしている。
- ・自立支援型の地域ケア会議では、要支援・要介護1の比較的軽度な方を対象にケアプランの検討をしている。

○ケアマネージャーについて

ケアマネの資質の向上、教育はどうするのか。

- ・市に指定権限が下りてきているので、検討していかなければならない。
- ・地域ケア推進会議の中で、ケアプランの検討をさせていただき、リハビリ職、歯科医師、薬剤師、管理栄養士などからケアプランについて、いろいろアドバイスをいただいている。
- ・自立支援重度化防止、サービスの適正化などの観点から、アドバイスをいただいているので、ケアマネの意識・資質の向上に繋がっているものと考えている。

○市民けんこう大学について

令和元年度は参加者数が少なかった。今後は、どのように募集するのか。

- ・これまで年度で募集していたため、年度途中での受講ができなかった。
- ・令和2年度からは、市民けんこう大学院から「市民けんこうマイスター養成講座」として、いつでも講座を受講でき、修了した方にはマイスターがとれるよう考えている。

○いきいきサロンについて

地域づくりの受け皿として、「通いの場」となってくるのではないかと。

- ・いきいきサロンへのリハ職の派遣ということで、市では地域リハビリテーション活動支援事業として、介護予防に繋げる取り組みを実施している。

○がん検診について

受診率についてどう考えているのか。

- ・課題として、リピーターは多いが新規の方が増加しない。その理由としては、検診そのものに興味がない方、受診に対する心配があるのではないかと。今後は、これらの方に対して、どう周知していくかが課題である。

○もの忘れ検診について

申込者数を 300 人見込んでいたが、具体的な根拠は。

- ・計画作成時点では、事業開始後間もないことから実績が出ていなかったため、当初の目標値が実績を踏まえていないことから、乖離が生じた。
- ・周知については、市報などを含め、いろいろな機会を捉えて対応していく。

○防犯対策について

振り込め詐欺などに市内の方が被害にあっているが。

- ・警察でも危機感を持って対応しており、出前講座などを実施している。
- ・市防災安全課の出前講座も開催している。
- ・地域包括支援センターでも同様に、出前講座や詐欺防止の周知を行っている。

○乳酸飲料配達サービスについて

受益者負担の導入などを検討、無料配布については、以前から意見が出ていたと思うがどのように懸念等しているのか。

- ・現在、配達回数の見直しについて、週 3 回を減らす方向。

○事業計画について

課題の設定、現状の認識など、今の行田市には無理である。

行田の舵取りをすることを考えて、企画、そういう部門を作って頂きたい。

- ・貴重なご提言として参考にさせていただく。

○施設整備について

第 6 期では、公募もなく 2 年続けて施設を建設。そのため、在宅の介護人材がとられている。非常に残念である。

施設をつくるのであれば、基準を作ること。公募をすること。

高齢化率が上がっても、行田市は一生懸命、在宅の意思を示すことが必要である。

施設を作れば、行田市は消滅していく。

- ・特養については、県の圏域の中で整備することとなっているが、機会があるごとに、在宅を中心の方向性を意思表示している。

○訪問型サービスについて

A 型の実績が何故ないのか。要らないのか。

- ・A 型は、事業所からすると A を実施する人材がいらない一方、通常の訪問介護で十分足りている。また、お金の問題もあり、伸びていないのが現状である。
- ・人材がいらない事業所をケアするため、平成 30 年度に担い手養成講座を開催し、計 18 名を養成して事業所に P R している。

そのあとの見守りとか、フォローアップはどう考えているのか。

- ・卒業してからの受け皿をどうするのかということで、通いの場作りと含めて考えていきたい。

○健康づくり教室について

介護予防も健康づくりも同じような事業である。高齢者福祉課と保健センターの保健師はどういう連絡を取って、どう実施していくのか。

- ・教室の開催に当たり、企画段階で高齢者福祉課の保健師と連絡を取りあって、内容を検討している。

○介護保険事業について

このままでは立ち行かなくなる、市が説明していく責任があるのでは。

- ・一例では、介護予防の推進、高齢化の状況、介護保険財政が厳しいなど、市民けんこう大学などで話をさせていただいた。

○介護保険料について

収納率 98%とあったが、実際の収納率はどうか。

- ・現実として、これくらいの収納率である。
- ・低所得の方、また、年金天引きになるまでの間の普通徴収で納め忘れの方もいるが、当然、公平性の観点から良いということでない。
- ・電話での催告や税金と一緒に納入をお願いするなど対応はしている。

〔最後に〕

○8期計画に向けて、数値目標の設定を具体的に考えてほしい。

○数値目標の設定について、できなかつたからと言って非難されるものではないので、しっかりと努力すべき。

市がしっかりと取り組むことで、みんなが頑張っけて町を守ることに繋がる。